

【特別養子縁組制度】

さまざまな事情により、生みの親の元を離れざるを得ない子どもたちがいます。「特別養子縁組制度」とは、親を必要とする子どもと、子どもを望む夫婦との間で、法的な親子関係を結ぶ制度です。

法改正でより身近に

これまで養子となる子の年齢は「原則6歳未満」でしたが、2019年の法改正で「原則15歳未満」に引き上げられました。
また、成立までの手続きが見直され、養親を希望する人の負担が減りました。

●普通養子縁組・里親制度との違い

	養子縁組制度		里親制度
	特別養子縁組	普通養子縁組	
戸籍の表記	長男(長女)	養子(養女)	—
子どもの年齢	原則として15歳未満	制限なし (ただし、育ての親より年下であること)	原則として18歳まで (必要な場合は20歳まで)
迎え入れる親の年齢	原則として25歳以上の夫婦 (ただし、一方が25歳以上であれば、一方は20歳以上でも良い)	20歳以上	制限なし
縁組の成立	家庭裁判所が決定	育ての親と子どもの親権者の同意 (15歳以上は自分の意思で縁組ができる)	児童相談所からの委託
関係の解消(離縁)	原則として認められない	認められる	生みの親の元に戻るか自立する

●特別養子縁組の相談窓口

公的機関である「児童相談所」の他に、法律に定める許可を受けた民間のあっせん事業者があります。

全国の養子縁組あっせん事業者一覧

(令和3年4月1日現在)

事業所所在地自治体名	事業者名	電話	URL
北海道	医療社団法人弘和会 森産科婦人科病院	0166-22-6125	http://mori-hosp.jp/
茨城県	特定非営利活動法人 NPO Babyぽけっと	0120-585-931	https://babypocket.net/
埼玉県	医療法人さずな会 さめじまボンディングクリニック	048-526-1103	https://bonding-cl.jp/
千葉県	特定非営利活動法人 ベビーブリッジ	047-405-2333	https://baby-bridge.com/
東京都	認定特定非営利活動法人 環の会	03-3951-7270	https://wa-no-kai.jp/
	一般社団法人 アクロスジャパン	080-3810-3838	https://www.acrossjapan.org/
	社会福祉法人 日本国際社会事業団	03-5840-5711	https://www.issj.org/
	特定非営利活動法人 フローレンス	03-4531-5610	https://florence.or.jp/
	一般社団法人 ベアホープ	042-420-6625	https://barehope.org/
滋賀県	医療法人青葉会 神野レディースクリニック	0120-038-414	https://www.jinno-lc.com/
奈良県	特定非営利活動法人 みぎわ	070-1811-4115	http://migiwa.link/
和歌山県	特定非営利活動法人 ストークサポート	0736-36-5500	https://www.storksupport.net/
山口県	医療法人社団 諍友会 田中病院	0834-32-2000	https://ninshinanshin.jp/
沖縄県	一般社団法人 おきな子ども未来ネットワーク	098-989-7301	https://www.okmirai.net/index.html
札幌市	医療法人明日葉会 札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル	011-746-5505	https://www.smwh.or.jp/
千葉市	社会福祉法人 生活クラブ 生活クラブ風の村ベビースマイル	043-306-2001	https://kazenomura-engumi.jp/
大阪市	公益社団法人 家庭養護促進協会大阪事務所	06-6762-5239	http://ainote-osaka.com/
神戸市	公益社団法人 家庭養護促進協会神戸事務所	078-341-5046	https://ainote-kobe.org/
岡山市	一般社団法人 岡山県ベビー救済協会	086-250-2382	http://www.okayamaog.jp/
広島市	医療法人 河野産婦人科クリニック	082-242-1505	https://byoinnavi.jp/clinic/92839
熊本市	医療法人 聖教会 慈恵病院	096-355-6131	http://jikei-hp.or.jp/
	社会医療法人 愛育会 福田病院 特別養子縁組部門	096-322-2995	https://www.fukuda-hp.or.jp/inquiry/special_adoption/



特別養子縁組制度についてもっと知りたい ▶「特別養子縁組」特設サイト
<https://telling.asahi.com/telling/extra/tokubetsuyoshiengumi/index.html>

特別養子縁組制度に興味がある ▶児童相談所相談専用ダイヤル ☎0120-189-783 全国児童相談所一覧 養子縁組民間あっせん事業者一覧

“自分だけを見てくれる”
その安心感が子どもを支えます

「特別養子縁組」
家族のかたち

子どもを育てたいと願う人へ



特定の大人の愛情に包まれて育つことで自己肯定感が生まれる

守ってくれる人や帰る場所があることで安定した生活が送れる

特別養子縁組制度に興味がある ▶児童相談所相談専用ダイヤル ☎0120-189-783

一瞬一瞬の積み重ねが 家族の絆を深めていく

不妊症と診断され、特別養子縁組制度で子どもを迎えた久保田智子さん。制度を利用して迎えた子どもを育てる池田さんご夫妻。漫画『パーフェクトワールド』の作者である有賀リエさん。それぞれが考える家族のかたちと子育ての経験について伺いました。



子どもと真剣に向き合ううち「私が母です」と言えるようになる

久保田智子さん(TBS報道局所属)

2019年1月に夫婦でハナちゃん(仮名)を長女として迎え入れて、22年には3歳になります。最近では自分から「こうしたい!」と意思をはっきり伝えてくるので、親の忍耐力が試される日々です。

特別養子縁組制度について、最初に知ったのは高校の授業で、産婦人科の先生が講演してくれたときです。ただ、知識として知っていることと、自分事として知るとでは大きな違いがあると思っています。

私は20代の早い段階で不妊症であること、子どもを授かることは難しいことを医師から告げられていたので、「自分の人生はどうなるんだろう」と思っていました。しばらくして、特別養子縁組を決めた夫婦の密着ドキュメンタリーを見たんです。

ぼんやりとしていたものが可視化されたこ

とは大きかった。「こういう選択肢が“本当に”あるんだ」と救われた気持ちがありました。

不妊症であることで、そもそも結婚を決めることが、私にとっては大変なことでした。

子どもを産み、育てるという、当たり前だと思っていた選択肢が私にはなくて、結婚する時点で、「この課題を一緒に背負ってください」と相手をお願いすることに苦しさがありました。ただ、すごく良かったと思うのは、早い段階で特別養子縁組という制度の存在を自分事として考えていたことだと思います。不妊症が分かったときから、自分は子どもを“産みたい”のか、“育てたい”のか、をずっと考えていました。可能性にかけて不妊治療をするという選択肢もありましたし、最初から特別養子縁組を考えることもできた。両者を並列に考えられたことで、夫と「特別養子縁組がいい

と思う」と話し合っで結婚できたんです。

ハナちゃんとの暮らしの中で、初めころは「産んでいない」ことに対して、何か欠けているような感覚が少しあったと思います。「私が母です」と言うことにすぐたさがあり、どこか自分の中で、向き合いづらいコンプレックスがあったのかもしれない。

でも、いまは「はい、母です!」と言えるくらいの強さがあります。

産むということはもちろん素晴らしいこと。でも毎日の生活も同じように素晴らしくて、どんどん積み重なっていくものだと思うんです。

うまくミルクが飲めるようになったり、歩けるようになったり、私の口癖が娘にも出てきたり。「育てる」ことに一生懸命向き合うことで、「母親にしてもらっている」という感覚がありますね。

特別養子縁組を検討されている方の中には、「迎え入れた子どものことを愛せるかな」と思う方もいるかもしれませんが、愛情は突然100%の形で現れるものではなくて、徐々に大きくなっていく。不安というのは実際に新しい環境へ飛び込んでみるとある程度、解消されることもあり、心配はしなくてもいいのではないかと私自身は感じています。(談)



久保田さんに抱っこされ、ハナちゃんも満面の笑みに(久保田さん提供)



大事なのは、夫婦でとにかくたくさん話し合うこと

池田紀行さん(会社経営者)

2019年に特別養子縁組で長男を迎え入れました。妻が30歳のときから不妊治療を始めて、35歳くらいのとき、妻から制度のことを聞きました。当時は、全く「自分事」化できなかったです。「自分たちが頑張れば授かれるんだ」という思いがありました。

二人にとって大きな出来事が、妻が30代後半で死産を経験したことでした。妊娠7か月での死産だったので、私たちの心が折れ

てしまった。

不妊治療を“お休み”し、それまでの治療優先の生活に区切りをつけようと、それぞれが夢を叶えていく期間を3、4年過ごしました。

妻は、ボランティア活動として、乳児院の子どもにミルクをあげたり、児童養護施設を出たあとの子どもたちのアフターケアに携わったりし始めました。その関わりの中で、「私は親になりたい」という気持ちに気付いたそうです。

妻がそんな思いをあたためていた中、僕は「夫婦二人で歩んでいけばいいや」と思っていました。変わったきっかけは、妻が子宮疾患で子宮全摘出を決めたときです。その手術後、病室で手紙を渡されました。そこには、「自分で産むことはできなくなったけれど、育てたいという気持ちはなくなっていない。特別養子縁組を考えてほしい。あなたが自分の夢を叶えていくように、私も子どもを育てるという夢を叶えたい」と書かれてあった。考えが大きく変わりました。



特別養子縁組が、社会の当たり前の選択肢になれば

有賀リエさん
(漫画家 代表作『パーフェクトワールド』)

車いすで生活する男性・樹(いつき)と健常者の女性・つぐみのラブストーリーを描いた漫画『パーフェクトワールド』で、二人が不妊治療を経て特別養子縁組を選択し、子どもを迎える様子を描きました。妊娠できなかった先に、こうした制度で子どもを育てることができるんだと知ったとき、そちらを描くことが、この作品には合っていると思うようになりました。これまでも、障害があるからこそ、つぐみと樹が乗り越えてきたことがたくさんありました。子どもを迎えるというテーマにおいても、妊娠が叶わなかった、その先の幸せをつかんでいく形があるのなら、それを描くべきだと思ったんです。

そもそも特別養子縁組については、「自分には無理だ」という感情が強かったです。もし、子どもが将来何か問題を起こしたり抱えたりしたときに、「血がつながっていない」ことを理由にしてしまうのではないか、という怖さがありました。でも、息子が3歳になったこれまでの日々で、「血がつながっていない」と考えたことは、一度もありません。それは、息子がうちに来た瞬間に「なくなっていた」んです。

お伝えしたいことは、大事なのは夫婦でとにかくたくさん会話をする、ということ。血のつながらない子どもを迎え入れる準備をしていくためには、夫婦が同じくらい深く考えて、思考が成熟している状況にないといけない。努力して、意識的に会話をしなければすり合わせられないことだと思っています。養子は難しいテーマなので、普段から話にくいことを話し合える関係じゃないと、会話が深まっていきません。夫婦間でどんなことも言い合える土台作りも欠かせないと思います。(談)

特別養子縁組が、社会の当たり前の選択肢の一つになれば、と思います。

「うちの子、特別養子縁組で迎え入れたんだ」と友人に言ったら、「そうなんだ、良かったね」とごく普通に会話が生まれるような。珍しいことではない社会になってほしいなと思っています。

子どもたちにとっても、家庭に入って育つ機会が増えることは大切なことですし、妊娠したけれど子どもを育てられない方が、育てられる方に託そうと手放すこともまた、大きな愛だと思うんです。制度の理解が広まることで、子どもの幸せにもつながるのではないかと感じています。(談)

